

台湾大学蔵圓威本『日本書紀』の声点

——書写者圓威の差声意識——

西 崎 亨

一

台湾大学図書館には、その奥書（六十一丁ウラ）に

嘉吉二年^{壬戌}拾月廿五日申時書之 筆者圓威^{廿五年}

の如き識語を有する、日本書紀卷二のみの一本が蔵されている。台湾大学蔵の、当該一本は、嘉吉二（一四四二）年に、圓威によって書写されたものである。

当該書は、久保木秀夫氏が「台湾における古筆資料の所在調査と研究」（『二〇〇二年度 財団法人交流協会日台交流センター歴史研究者交流事業報告書』財団法人交流協会）で、『日本書紀神代卷』古写本として報告のある四本の中の一冊である。因みに、Shing-Ching Shyu「台湾大学図書館所蔵の日本研究文献から見た日本植民史」には、日本語の善本として、『日本書紀神代卷』の古写本として、六本（いずれも桃木文庫）が示されている。

ところで、当該圓威本『日本書紀』は、『國立臺灣大學圖書館典藏日本書紀 影印・校勘本一圓威本』（臺灣大學典藏全文刊本2）として、国立台湾大学図書館から、二〇一二年にカラー印刷として出版されている。

前記複製本、久保木秀夫の前掲報告書及び、Shing-Ching Shyu の前掲報告書等によって、本書の若干の書誌等を記しておく。

当該、圓威本『日本書紀』は、桃木文庫（桃木武平旧蔵書）五四〇部四八五九冊の中の一冊で、桃木文庫には、『日本書紀神代卷』の古写本は、当該圓威本（嘉吉二年写）以外に、文龜三年写・室町末期写・慶長九年写・江戸初期写のものが二部の六部九冊が存する由である。

当該書は、外題は欠くが、巻首題及び尾題に「日本書紀卷第二」と見える、神代下のみの一冊である。縦二七・〇糎、横一八・三糎で、一面六行、全六一丁からなる。

なお、複製本には、「圓威本解説」として、是澤範三氏の解説がある。因みに、同解説は、「台湾大学蔵『日本書紀』古写本の総合的研究」（研究代表者 是澤範三）の「科学研究費補助金研究成果報告書」の「圓威本解説」（4—2）に同じい。

書写者の圓威については、未詳であるが前記解説は、「特定はできない」としながら、高野山真言宗光応山普光寺の開祖である圓威をあげている。因みに、当山は、室町時代中期（一四五〇年代）に開山していたといわれる。圓威は長祿元（一四五七）年に寂したとあるので、寂する一五年前の書写ということになるが、何歳の時の書写かは不明。因みに、是澤氏は解説の中で、四〇歳で没したとあるが存疑。

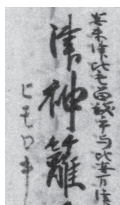
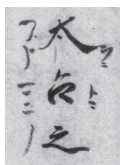
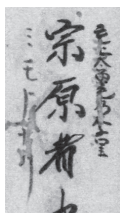
二

当該書の訓点について、略述する。

墨筆と朱筆による加点が存する。

墨筆による加点には、仮名点・返点・義注点・声点が、朱筆による加点には、ヲコト点・句切点・声点・返点が見られる。

墨筆による仮名点には、万葉仮名による和訓と片仮名による和訓とが存する。片仮名には、例えば次に示すように、



(何れも23オ)

二種が存する。右傍の仮名を一種、左傍の仮名を二種とすると、二種の仮名は一種の仮名よりは薄く、文字も大きいものである。

二種仮名和訓には、次の様な場合が確認される。

① 一種仮名に対して別訓を示すもの

比毛留岐―ヒモロキ、ヲヲトマ―フトマ、その他、「隨勅」―美古止乃末尔、―キミノマニク(24ウ)、「遷轉」―宇津之比天―ウツロイテ(26オ)、「生児」―ナリイヅル―ミコヲウム(27オ)、「竹原」大加波良―タカツラ(27ウ)、「俳人」―和左比止―ワサヤキノタミ(49オ)、「妻之」―ツマトシ玉フ―イアハセマツル(51オ)、等々。

② 字音仮名(万葉仮名)表記の和訓を片仮名表記に改めるだけのもの

「姉」||以呂祢波—イロネハ(25ウ)、「竹刀」||阿乎比江—アラヒエ(27ウ)、「火熱」||保止保利—ホトリ(30ウ)、「織」||波太於留—ハタラル(34オ)、「有身」||波良女利—ハラメリ(34オ)、「不與」||安比末津良須—アヒマツラス(34ウ)、「玲瓏」||弓利加、也介利—テリカ、ヤケリ(37ウ) 等々。

③ 新しく和訓を加えるもの

「狭長田」||サナタ(19オ)、「大己貴神」||アナフチノミコトニ(20オ)、「火明命」||ホノアカリノ(27オ)、「諸神」||ヨロツノ(32オ) 等々。

なお、仮名二種による傍訓については、万葉仮名表記傍訓を含めて、所載語彙については別の機会に考察する。

墨筆の返点には、レ点、一二点、上中下点が見られる。レ点については、返しの鈍角のものと、鋭角のもの様々であり、その加点位置も中央―左傍と恣意的である。例えば、次の如くである。

起烟 (10ウ)

遠難問之 (11ウ)

不須許 (20オ)

降之 (23ウ)

當猪視 (23ウ)

與兄 (41ウ)

但し、文字と文字の中央に加点し、返しを鈍角とするものを基本とするが、そうではない例が、全体的に見られる点、圓威の書写の杜撰さを示すものであろう。

義注は、「邪鬼」に「悪神」(1ウ)、「壮士」に「威人」(2ウ)、「光儀」に「天流」(13ウ)、「阿妹」に「天也」(14オ)、「多磨」に「大玉也」(14オ)、「人」に「カミ也」(17ウ)、「報告」に「返申ス事」(20ウ)、「白楯」に「ホコ也」(21オ)、「奉従」に「奉仕部」(21ウ)、「号」に「申」(27オ)、「不返」に「返事不申」(32ウ)、「門外」に「合産也」(42ウ)、「洪

「濤」に「大波」(44ウ)、「邊風」に「ウラヨリ吹風」(57ウ)、「西州」に「西國也」(60オ)等々と見えるが多くはない。声点については、漢字音の声を示すものと国語音(和語)のアクセントを示す場合とがある。漢字の左声例には、次の例が見られる。

- ① 經(平)(6オ) 津(平)(6オ)
 ② 經(平)(6ウ) 津(上)(6ウ) 船(平)(7ウ) 榘(去)(7ウ) 頗(去)(19ウ)
 齋(平)(27オ) 主(上)(27オ) 標(平)(34ウ) 火(去)(34ウ) 喧(上)(34ウ)
 響(上)(27ウ) 可(上)(37ウ) 怜(平)(37ウ)
 ③ 赤(入)(38オ) 女(上)(38オ)

が全用例である。①は「ニ」、②は圈点、③は複圈点で差声する。①は圈点の杜撰な書き方とみれば、すべてが圈点による差声例となる。因みに、①は、次の様にあるものである。



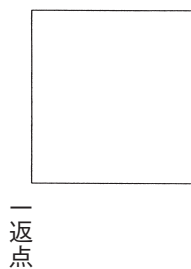
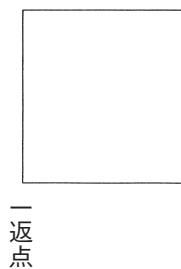
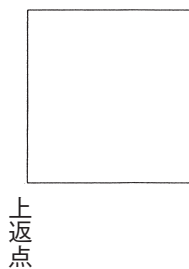
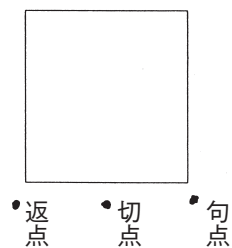
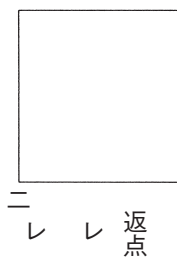
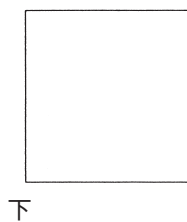
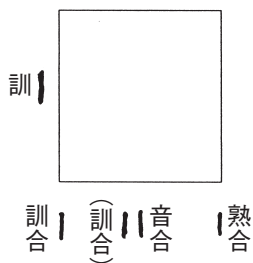
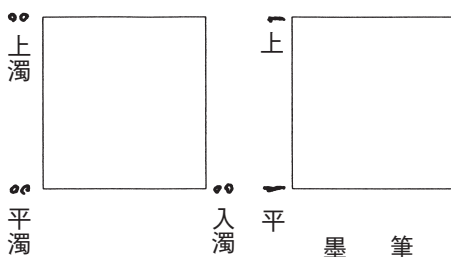
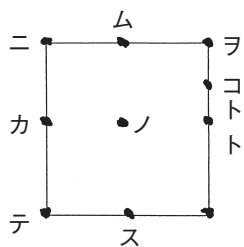
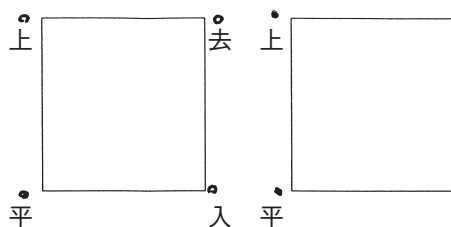
(60オ1)

国語音への差声は、本文中の歌謡及び割注の和語の部分に見られる。国語音(和語)の差声例については、

一部に、「二」(陀・毘・盧・須)による例が見られるが、他は総て圈点によるものである。

次に、朱筆による加点について。

ヲコト点は、次図のように帰納できる。星点のみで、線点、鉤点等は確認されない。

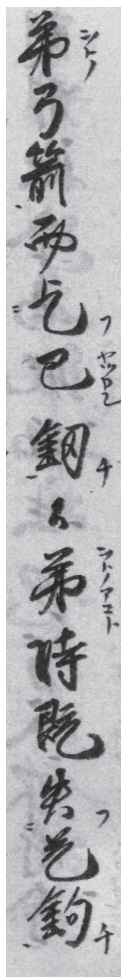


しかし、次の①②に示すように、

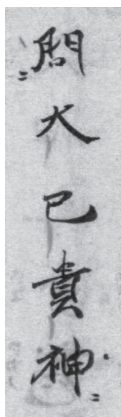
① 1丁ウラ二行目



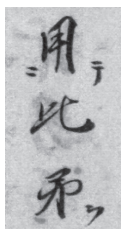
② 36丁ウラ三行目



後半になるほど、星点が粗雑になるのが目に付く。特に、星点のテ・ニ・ヲ・コト・ト・ハ等を「二」「一」とする例が目につく。訓合符、音合符・熟合符についても、その位置には揺れが目立つ。返点については、星点によるものと、一二点の「一」のみを示すものがある。

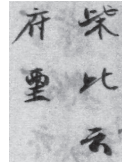


(6ウ4)

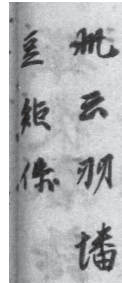


(8オ4)

左図の「神」字、「矛」字の左下部の「一」が、その例である。(因みに、「問」字、「用」字の左下部の返点「二」は墨点) 声点については、すべてが国語音に差声するものである。万葉仮名表記傍訓に差声するものが大部分である。



(7ウ3)

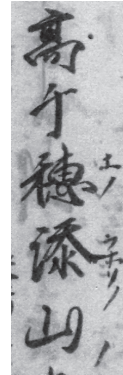


(45ウ6)

等



(21ウ4)



(33オ6)

等

右に示すように、まゝ、割注の万葉仮名和訓、片仮名表記ご和訓に差声するものも見られる。因みにこの場合の声点は星点によるものであるが、「一」「二」のような例も多く、記号としては粗雑である。

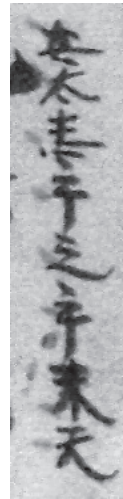
なお、本文の歌謡の部分の五四丁より後の差声には「一」で加點される。因みに、五四丁以前には圈点を加點する。ところで、前掲「穂添」の「ホノヲホリノ」の差声の部分を拡大したが、次図であるが、



「ホ」「リ」の差声位置は曖昧である。

次に、本稿の考察の対象とする、万葉仮名傍訓の声点の差声状況について概観する。

① アダシヲミヲミテ (54才6)



② モ、ヌヒアマリ (21才4)



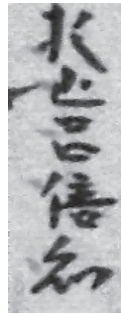
③ シ、ヲカル (49ウ6)



④ オトナヒシ (32才5)



⑤ オトロヘチ (47ウ4) 等々



①の「志・乎・三・乎」字、②の「比・安・万」字、③の「志・、・乎・留」字、④の「於・止・奈」字、⑤の「止・呂・倍・知」字等の仮名については、平声・上声のいずれかは不用意に決めがたい。

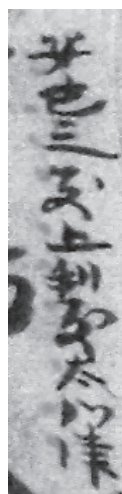
因みに、御巫本によると、②は「毛、奴比安万利 (○○●●●●●●)」、③は「志、乎加留 (○○●●●●●●)」、④は「於止奈比之 (●●●●●●●●)」、⑤は「於止呂倍 (○○●●●●●●)」と見える。なお、①は非対応。

加点者の、加点の杜撰さを示すものであり、書写者(圓威)の声点についての意識が問題となるものである。因みに、本稿の末尾に、圓威本の差声訓を、索引として付載するが、その中で「？」として示した音節が当該例に相当するもの

三—1

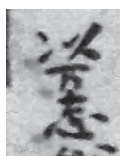
圓威本の万葉仮名傍訓は、山口真輝氏『御巫本日本書紀』の和訓について—台湾大学蔵『圓威本日本書紀』万葉仮名傍訓との比較から—によると四八六項目（含義注のみの項目・除歌謡部分）とある。

山口氏の前掲論文によると、御巫本の万葉仮名傍訓を付される項目は、四七一（神代下）項目である由、従って、圓威本には御巫本比約一〇三％に付訓される訳であるが、その約八〇％に及ぶ三八七項目に差声されている。以下、その差声について報告する。



右の図版の上は、「奇鳥」（3才6）の付訓、下は「神徳」（49才3）の付訓である。

上図の「安也之支」には「○○○○●」、下図には「○○●●●」と差声されてある。「安也之支」は、形容詞「あやし」の連体形である。因みに、当該の上例は、御巫本には、「安也之支（○○○○●）」とある。下例は、「安也支保比（○○●●●）」とある。



右の上図は「汝」(20ウ2)、下図も「汝」(22オ6)の付訓である。上図には「○○○」、下図には「●●●?」の差声
 されている。因みに、御巫本には、両例ともに、「○○●」とある。

右の例で確認したように、同一の語で、声調の異なるものが、相当の数見られる。

あ〔我・吾〕	● (23ウ4)	○ (24オ1・47オ5)	(御巫本 ○)
あしき〔悪〕	? ○● (11オ6)	●●● (12オ4)	(御巫本 ○○●・●○○)
あひ〔相〕	○○ (19オ5)	○● (34ウ2)	(御巫本 ○●)
いでませる〔出〕	○○○×○ (38オ5)	●●●? (47オ5)	(御巫本 ○○●○○)
うみべた〔海濱〕	○○○○ (25オ1)	○?○● (51オ1)	(御巫本 ○●○○ ○○○●○)
うるはしく〔麗〕	○○○○○ (13ウ5)	●○○○○○ (42ウ3)	(御巫本 ○○○●○)
かく〔斯〕	○○ (17ウ6)	●○○ (18オ2)	(御巫本 ○○・●○○)
きみ〔君・王〕	●● (6ウ5・52ウ6)	○● (11オ5)	(御巫本 ●●)
くに〔国・郷〕	●● (15オ6・24ウ4)	○○ (21ウ5)	(御巫本 ●●)
こころ〔心〕	●●● (12ウ4)	●○○● (47オ5)	(御巫本 ○○○、一例○○●●)
これ〔是〕	●● (43ウ2)	○● (44オ5)	(御巫本 ●●)
さき〔先・前〕	●● (19オ2)	○● (40オ4)	(御巫本 ●●)
すそり〔火闌降〕	●●○ (36オ5)	●●● (39ウ6)	(御巫本 ×)
すでに〔已〕	? ●? (16オ5)	○○ ●● (59ウ5)	(御巫本 ○●○○)
すゑ〔杪・末〕	○○ (3オ4)	○● (3オ6)	(御巫本 ●●)

ところ〔処〕	○○○ (16才1)	●●● (20ウ2・33ウ2)	御巫本 ●●●・●●●・○○○
とほり〔て〕〔通〕	○○○ (3ウ3)	●?● (24ウ4)	御巫本 ○○○
はたる〔徴〕	○●○ (36ウ5)	○○● (37才1)	御巫本 ○○○●
はらみ〔ぬ〕〔孕〕	○○● (10才4)	○●● (25ウ5)	御巫本 ○○○●
ひかり〔光〕	○○● (13ウ5)	×○○ (54ウ5 但本文歌謡部)	御巫本 ○○○●
まこと〔誠〕	○●● (22才3)	○○? (51才2)	御巫本 ○○○○
また〔亦〕	●○ (7才6)	○○ (37才4)	御巫本 ○●●
まにまに〔隨〕	●● (46才6)	●○? (19才5)	御巫本 ●○、一例○○○
みこと〔尊・御言〕	○○? (24才5)	●●● (24ウ6・34ウ1)	御巫本 ●●●、一例○○●●●
みち〔道・術〕	○○ (18才1)	●● (50ウ3)	御巫本 ●●●
もと〔元・故〕	○● (23才2・49才5)	○○ (36ウ5)	御巫本 ○○・○●
やそ〔八十〕	?● (21才4)	?○ (47ウ2)	他に「?」 (20ウ6)
	(21才4)	(47ウ2)	(20ウ6)
			御巫本 ●○

(御巫本 ● ● ● ●)

① 圓威本の型が、御巫本のいずれかの型に一致する。

ということになる。①②の比率は、概ね半々である。圓威の「声」への意識の欠如、差声への意識の杜撰さを示すものである。

次に、動詞の活用を例に、差声の状況を見る。(圓威本の声調【御巫本の声調】のように表示する。【一】は、御巫本に見えない事を示す。)

連用形の音節数一

連用形の音節数一

上二段	用	ゐ	〔居〕	ゐ	〔率〕	〔含・ひきい〕	〔率〕	〔●〕	〔○〕	〔●〕
下二	用	ね	〔寝〕							
カ変	用	き	〔来〕							
サ変	未	せ	〔為〕							
	用	し	〔○〕	〔●〕	〔●〕					

連用形の音節数二

四段

形の音節数二

四段

止 す (●)【●】

未 うま〔産〕 (●●)【●●】 めさ〔召〕 (○○)【○○】

用 いひ〔言〕 (○○)【●●】 おし〔押〕 (●●)・○○【●○○】 きき〔聞〕 (○○)【●●】

こい〔請〕 (○○)【○○】 すみ〔住〕 (○○)【●●】 たち〔立〕 (○○)【○○】

ちり〔散〕 (●●)【●●】 てり〔照〕 (○○)【●●】 とひ〔間〕 (●●)【●○○】

とり〔取〕 (●●)【○○】 なき〔泣〕 (●●)【○○】 ふみ〔踏〕 (●●)【●○○】

まし〔坐〕 (●●)【○○】 めし〔召〕 (○○)【○○】 もち〔持〕 (○○)【○○】

ゆき〔行〕 (●●)【○○】 わき〔沸〕 (○○)【●○○】

いむ〔諱〕 (○○)【○○】 きる〔切〕 (●●)【●●】 すむ〔住〕 (○○)【○○】

いふ〔言〕 (●●)【●●】 うむ〔産〕 (●●)【●●】 おふ〔負〕 (●●)【――】

おる〔織〕 (●●)【●●】 ます〔坐〕 (●●)【●●】

たて〔立〕 (○○)【○○】 ふせ〔臥〕 (○○)【●●】 のめ〔吞〕 (○○)【○○】

はれ〔脹〕 (●●)【――】

未 あら〔有〕 (○○)●●・●●【○○●●】

用 をり〔居〕 (●●)【○○】

体 ある〔有〕 (○○)【○○●●】

ラ変

ラ変

連用形の音節数三

四段

已	あれ〔有〕 (○○●●【○○●】)
上二段	はち〔恥〕 (○○・●●●【○○●】)
用	
未	あれ〔生〕 (○○●●【○○○】)
下二段	
用	いけ〔活〕 (○○○【○○○】)
	いで〔出〕 (○○○・●●●【○○●】)
	うせ〔喪〕 (○○○●●●【○○○】)
	すて〔棄〕 (○○●●●【○○●】)
	そへ〔副〕 (●●●●●【○○○】)
	たて〔建〕 (○○○●●●【○○○】)
止	われ〔割〕 (○○●●●【○○○】)
	そふ〔副〕 (○○●●●【——】)
体	ほゆる〔伏〕 (○○○●●●【○○○●●】)

未
かよは〔通〕
●●○
【――】
つくら〔造〕
●●●
【○○○】
――
用
あふぎ〔仰〕
●●○
【●●●】
いかり〔怒〕
●●●
【●●●】
まつら〔奉〕
●●●
【●●●】
むすば〔結〕
●●●
【――】

および	〔及〕	●●●●	●●●●	●●●●	かかり	〔懸〕	○○●●	○○●●
かへし	〔還〕	○○○○	○○○○	○○●●	かへり	〔還〕	○○○○	○○●●
こまみ	〔拒〕	○○○○	○○○○	●●●●	たたし	〔立〕	○○●●	●●●●・○○○×
つはき	〔唾〕	○○●●	○○●●	●●●●	とこひ	〔誚〕	●●●●	●●●●
とほり	〔通〕	○○○○	○○○○	●●●●	のほり	〔登〕	○○○○	●●●●

連用形の音節数四																
四段		ラ変		下二段												
用	未	用	未	用	未	命	体	止								
あたはし〔当〕	したがは〔徒〕	はらせ〔駈〕	あたま〔与〕	いこへ〔憩〕	かくれ〔隠〕	すぐれ〔優〕	きこゆ〔聞〕	はべら〔侍〕	ころす〔殺〕	なげく〔嘆〕	けがす〔汚〕	いたれ〔至〕	まされ〔勝〕	はらめ〔孕〕	まうし〔申〕	ひらき〔開〕
(●●●●●●●●)	(●●●●●●●●)	(●●●●●●●●)	(●●●●●●●●)	(●●●●●●●●)	(●●●●●●●●)	(●●●●●●●●)	(●●●●●●●●)	(●●●●●●●●)	(●●●●●●●●)	(●●●●●●●●)	(●●●●●●●●)	(●●●●●●●●)	(●●●●●●●●)	(●●●●●●●●)	(●●●●●●●●)	(●●●●●●●●)
〔当〕	〔徒〕	〔駈〕	〔与〕	〔憩〕	〔隠〕	〔優〕	〔聞〕	〔侍〕	〔殺〕	〔嘆〕	〔汚〕	〔至〕	〔勝〕	〔孕〕	〔申〕	〔開〕
〔当〕	〔徒〕	〔駈〕	〔与〕	〔憩〕	〔隠〕	〔優〕	〔聞〕	〔侍〕	〔殺〕	〔嘆〕	〔汚〕	〔至〕	〔勝〕	〔孕〕	〔申〕	〔開〕
あらはし〔顕〕	なやまさ〔悩〕	あはせ〔合〕	うれへ〔愁〕	くだけ〔碎〕	まかせ〔任〕	なづく〔号〕	※はむへら	つどふ〔集〕	はたる〔徴〕	まうす〔申〕	はらめ〔孕〕	あはせ〔合〕	うれへ〔愁〕	くだけ〔碎〕	まかせ〔任〕	なづく〔号〕
(●●●●●●●●)	(●●●●●●●●)	(●●●●●●●●)	(●●●●●●●●)	(●●●●●●●●)	(●●●●●●●●)	(●●●●●●●●)	(●●●●●●●●)	(●●●●●●●●)	(●●●●●●●●)	(●●●●●●●●)	(●●●●●●●●)	(●●●●●●●●)	(●●●●●●●●)	(●●●●●●●●)	(●●●●●●●●)	(●●●●●●●●)
〔顕〕	〔悩〕	〔合〕	〔愁〕	〔碎〕	〔任〕	〔号〕	〔※はむへら〕	〔集〕	〔徴〕	〔申〕	〔孕〕	〔合〕	〔愁〕	〔碎〕	〔任〕	〔号〕
〔顕〕	〔悩〕	〔合〕	〔愁〕	〔碎〕	〔任〕	〔号〕	〔※はむへら〕	〔集〕	〔徴〕	〔申〕	〔孕〕	〔合〕	〔愁〕	〔碎〕	〔任〕	〔号〕

である。①活用形によってアクセントの型は異なる。②各語は、「上」で始まる上型と「平」で始まる平型に二分される。③同一の型に属する語は、同じ型の活用変化する。等々である。

当該圓威本の場合、万葉仮名による付訓への差声例がそれほど多くなく、その上、後掲資料に「？」印で示した平声か上声かの不確かな加點例が多く、加點者の「声」意識の曖昧さが相まって、右に整理した型の表の信憑性については、多々問題点があると思われる。

しかし、三―一で示したように、圓威本の差声が、御巫本とは異なる例も多いという事実に鑑みる時、圓威本の声点が、移点されたものか、書写者圓威の判断に基づく加點―その場合、差声された「声」は、どの時期のものか―なのか、といった興味深い問題点があるろう。その点で、圓威本の声点は、更に詳しく考察する必要があると思われる。別稿を用意したい。

三―3

日本語のアクセント体系として、中低型のみは安定した型として存在しないことは周知の事実である。ところで、圓威本においては、

あやしき〔奇〕(○●○○●)・うかがひ〔窺〕(●○○●)・うべなは〔諾〕(●○○○)・かかやけ〔輝〕(●○○○)・きたなき〔汚〕(●●○○●)・けがらはしき〔汚穢〕(○○●●○○●)・こころ〔心〕(●○○●)・たすき〔襷〕(●○○●)・たてまつる〔奉〕(○○●○○●)・つくり〔造〕(●○○○)・ととのほり〔調〕(○○○○○○)・つかまつる〔仕〕(○○○○○○●)・●○○●●?・のたまふ〔宣〕(●○○○)・めぐらし〔巡〕(●○○●●) 等々の中低型の例が見られる。

因みに、御巫本には、あやしき(○○○□●)・うかがひ(――)・うべなは(●●●●●)・かかやけ(●●●○○)・

きたなき (○○○●)・けがらはしき (○○○○○●)・ころ (○○●)・たすき (●○○)・たてまつる (○●●●○)・
 つくり (○○○●)・ととのほり (○○●●○)・つかまつる (○○○●●●○)・のたまふ (●○○○●)・めぐら
 し (●●●○)とみえる。

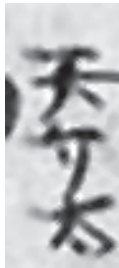
「つかまつる・のたまふ」の二語を除いて、中低型ではない。「つかまつる」については、平安時代には「つかうまつる」と「つかまつる」が併存するが、「つかふ+まつる」の複合語化へのゆれの現れか。「のたまふ」も「のる+たまふ」の平安時代での複合語化へのゆれの現れか。

いずれにせよ、圓威本の中低型については、差声項目三八一に対しては、その用例数は、特に多いというわけではなからうが、日本語のアクセント体系に対して、中低型が時代を通じて存在しないことを考慮すれば、当該本の書写者圓威の差声意識の杜撰さを示していよう。

三—4

次に、濁音節と複声点について。

① 安介太 (●●●)



御巫本 安介太 (●●●)

② 安佐和良非津、(○○×●●●●)



御巫本 安佐和良非津、(●●●●○)

③ 安万久太良志牟(●●●●???)

御巫本 安万久太良之牟

④ 以太志、加八 (○○?●●○)

御巫本 以太志、加八 (○ ○ ○ ● ○ ○)

⑤ 伊末太 (○○●)

御巫本 伊末太 (○○●)

右に五例のみを抄出したが、圓威本は基本的に濁音節に複点を加点していない。因みに、御巫本は濁音節には複点を加点する。しかし、圓威本が、全く濁音節に複点をしないかと言えば、そうでもなく、右例④の「しかば」の「ば」音節に「八」字の平声を複点で加点する例も存する。

① 安比太尔 (●●○●)

御巫本 安比多尔 (●●○●)

② 宇布也 (●●●)

御巫本 字布也 (●●●)



③ 乎支津加世 (○●●○○)



④ 倍太加世 (○○○?)

御巫本 乎支津加世 倍太加世

(○●●●)(○○○●)

⑤ 須弓尔 (○●○)

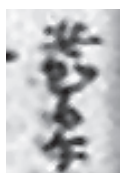
御巫本 須弓尔 (○●○)



右に五例抄出した。御巫本と対比した場合、声調は全同ではないが、複点を差声する濁音節一致するものである。しかし、「安加古尔」(吾が子に)の



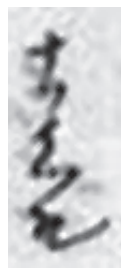
(23ウ4)



(24オ1)

右の例は「?●?」助詞「が」には複点が加点されているが、下例の「○○○●」の、「が」は単点の加点である。前例③の「かぜ(かぜ)」も、上例は「せ」に平声にて複点の加点が見られるが、下例は単点の加点である。因みに、上例は星点での加点であるが、下例の声点はセ線点「二」を用いる。

圓威本に加点される濁音節の例は、延べ四十例弱で、基本的には濁音節の加点はない。ところで、万葉仮名付訓の例ではないが、「生」字(27オ2)に、次に示す例が見られる。



(27才2)

「ナリイヅル」の万葉仮名付訓の例として次の例が見える。声点は「一」である。

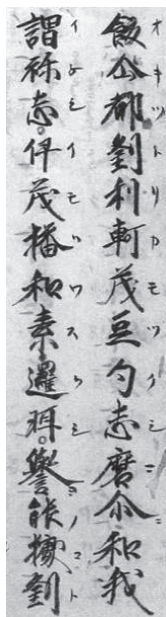


(27才1)

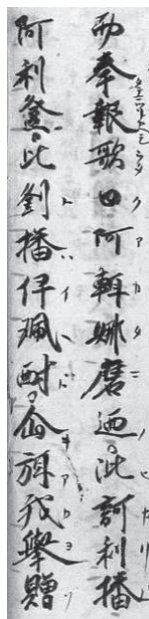
「那里伊豆留（○●○○○?）」とあるが、御巫本には「那里伊豆留（○●○○○|●）」とあり、「豆」字には複点が加点されているので濁音節である。カタカナ訓の「ナ・リ・イ・ル」の各音節の左傍の星点は、万葉仮名付訓の声点と一致するものであり、カタカナ訓の場合も、左傍らの加点は声点の機能を負うものであると断じ得る。だとすると「ツ」の右傍の複点も、ということになるが、この場合は声点の機能というよりも、濁音表示と見るのが穏当であろう。

三—5

万葉仮名による付訓された和訓の用例ではないが、本文中の歌謡部分の、五四才モテ以降には、



(54才)



(54ウ)



(55オ)

のように、線点「一」による声点（朱筆）が見られる。

飯企都鄧利軻茂豆句志磨尔和我謂祢志伊茂播和素邏珥譽能璩鄧馭鄧母

○●×××○○○●●○○○●●●●●●●●●●×○○○×●●×××

注 「謂」字の●（上声）は「／」で示す。

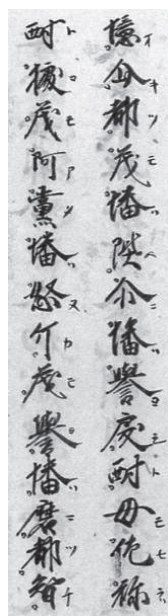
阿軻娜磨迺訶利播阿利登比鄧播伊珮耐企弭我譽贈比志多輔妬句阿利計利

●●●●××○○●○○○○○×○●●●●×●●○○○×○○●●●●●○

右の二歌謡の声点は総て「一」によるものである。

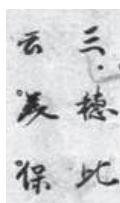
因みに、五四丁以前の歌謡の声点は、次のように圈点（墨筆）による。

14オ「阿妹奈屢夜」、14ウ「阿磨佐箇屢」、34ウ「憶企都茂播」等の歌謡は、次のように圈点が差されている。

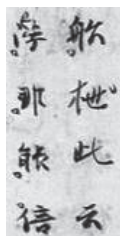


(34ウ)

ところで、本文中の割注部分の声点について概観する。

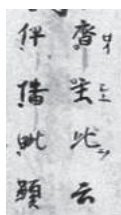


(7オ)

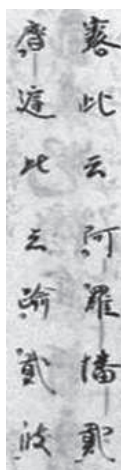


(7ウ)

のように、圈点「。」(墨筆)による差声が、普通に見られるが、



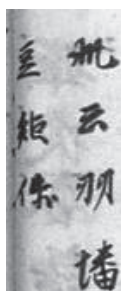
(27オ三)



(27オ四)

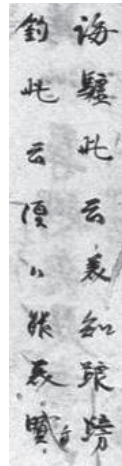
右に示すように、圈点「。」(墨筆)と線点「二」(墨筆)との併用差声の例も見られる。

なお、朱筆による星点「・」・線点「一」「二」による差声例が次の様に見られる。

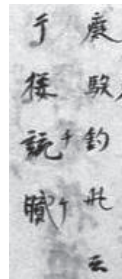


(45ウ)

万葉仮名による付訓の差声も、



(55才2)



(55才3)



右に示すように、後半部になるほど、その加点の仕方が星点が線点「一」「ㄣ」のようになり、乱雑になるきらいがある。しかし、本文の歌謡部分の朱筆による声点「一」は比較的丁寧に差されている。

歌謡部分の声点―前半の墨筆の圈点「。」による差声、後半の朱筆の線点「一」による差声―については、更なる考察が俟たれる。

四

山口真輝氏は、前掲論文のなかで、御巫本と圓威本との関係について、

- 1、万葉仮名字母などの表記の一致率の高さから、非常に深い関わりがある。
- 2、両本が単独の和訓を持つ部分も少なくなく、和訓の一致しない場合も少なくない。
- 3、1・2の点から、二本は直接の引用関係ではない。
- 4、両本は、大変に近い和訓を有しているので、御巫本と同じ系統の日本書紀私記に依ると考えられる。

以上のように、結論して、圓威本（嘉吉二年（一四四二）書写）が、御巫本（応永三五（一四二八）年書写）書写から一四年後と、時期的にさほど隔たらない時点のものとして、対校資料として極めて貴重であり、御巫本研究に資する点で期待されると、圓威本を位置付けている。

ところで、圓威本の声点については、先に述べたように、

- 1、後掲の差声索引に示す如く、平声・上声の差声位置の曖昧な例が極めて多い。
 - 2、同一語で、声調の異なる例がかなり見られる。
 - 3、2の場合、一方が御巫本と一致するか、双方とも一致しないかの何れかである。
 - 4、動詞の活用形とアクセントの型の変化について見た場合、御巫本に比べ、極めて複雑である。
 - 5、御巫本は濁声点を差声するが、圓威本は濁声点を差さない。
 - 6、特に用例が多いことはないが、中低型の声調が見られる。
 - 7、声点は、基本的には星点であるが、「二」「ㄣ」等、乱雑なところが見られる。
- 等々、圓威本の差声の状況は、お世辞にも正確で、声点に対する意識が高いとは言えるものではない。書写者圓威の差声意識が高いものとはとても言えない。
- しかし、差声に対する杜撰さはあるものの、圓威本が貴重な一本であることには間違いは無い。

(付) 圓威本日本書紀差声訓索引

差声訓索引凡例

- 1、本索引の底本は、臺灣大學典藏全文刊本2『國立臺灣大學圖書館典藏日本書紀影印・校勘本一圓威本』（主編是澤範三・山口真輝）による。
- 2、索引は、掲出語の下に、圓威本の表記と声調・底本の所在・御巫本の声調を示す。
- 3、所在の「23ウ4」は、「23丁・ウ（オモテ・ウラ）・4行」を示す。
- 4、声調欄の「×」印は不差声、「？」は平声、上声の差声位置の曖昧なもの、「□」は濁声点を示す。

あ

あ〔我・吾〕

安加 (●●|)

23
ウ 4

○●|

安加 (○○○)

24
オ 1

○●|

安加 (○○●)

16
オ 4・
47
オ 5

○●|

あかに〔赤酸醬〕

アカ可知尔 (×××●●●)

17
ウ 2

●●●○●●

あかし〔絶然〕

安加久弓利天 (●●●○○●●●)

17
ウ 1

●●●○●●

あかだま〔赤珠〕

阿軻娜磨迺 (●●●●×)

54
ウ 5

●●●●○

あかめたひ〔赤女鯛〕

安加目太比 (○○●●○○○)

38
オ 6

●●●●○

あきらか〔未詳〕	安支良「」奈良須(●●●●「」●●○●)	51才2	○○○●●「」●○○○
あがる〔騰〕	安加留(○● ?)	32才6	●● ○○
あげた〔高田〕	安介太(●●●●)	52才4	●● ○
あざわらふ〔哭噓〕	安佐和良非津、(○○○×●●●●)	17才5	●●●●○○●●
あざわらひ	安之尔(○?●)	58才4	○○●
あし〔足〕	安之岐加三(?○●●×)	11才6	○○○●○○
あしき	安之岐止利(●●●●)	12才4	●●●●●
あしうら〔足占〕	安之宇良於須(○○○?●●●)	58才4	○○○●●「」●
あそび〔遊〕	止利乃阿曾比乎(●●●●×●●)	7才4	
あそぶ〔遊〕	安曾比(●●●●)	15才4	●●
あそび	安曾比(○?○)	25才1	●●○
あだしをみな〔化婦〕	安太志乎三「」乎(●●???.??.?)	54才6	
あたはす〔当〕			
あたはし			
あたふ〔能〕	阿多波之津(●●●●●)	10才4	●●●●○●

あは

あたふ〔与〕

あたへ

あぢすき〔味粗〕

あなだま〔孔玉〕

あはす〔合〕

あはせ

あはせ

あはた〔粟田〕

あひ〔相〕

あひだ〔間〕

あふく〔仰〕

あふき

あま〔天〕

安太波須止以比弓(●●●○○○×●)

10
ウ 3

●●●●○●●●●●

阿黨播怒介茂譽(●●●●○○○○)

34
ウ 5

安太倍万須(●○○○○○)※「安」に○あり

25
ウ 5

阿泥素企(●××○)

14
オ 5

阿奈陀磨(●●●×)

14
オ 4

不支安八世左留(×××○?○×)

45
ウ 5

●○○○●●○●●

安波世弓(●●●●○)

22
オ 6

○○●●●

安波田(○○○○)

32
ウ 4

○○○○

安比於久留(○○○●●○)

19
オ 5

○○●●●○

安比末津良須(○●●●●○)

34
ウ 2

○○●●●○

安比以波須(○?●●○)

58
ウ 1

○●●●●○

安比太仁(●●××)

10
オ 5

●●●○●

安比太尔(●●○●)

16
オ 5

●●●○●

安不岐天(●●○?)

37
ウ 6

●●●○●

阿麻能左愚謎(○○○○●×○)

3
オ 5

あめ〔天〕
あみ〔網〕
あまり
あまさかる〔天離〕
あまくだら
あまくだし
あまくだす〔天降〕

安万乃左久女 (○○○●●●●)	3才5	○ ○ ○ ● ○ ×
阿麻能以簸雉羅 (×○○○●●●●×)	9才2	
阿万乃日月 (○○○××)	17才3	○ ○ ○ ×
安末津比毛留岐 (○○○●●●●●)	23才4	● ● ● ● ● ●
安万津以波佐加 (?○○○○○○○)	23才4	○ ○ ● ○ ● ●
安万乃他牟左介 (?●●●●●●)	27才5	○ ○ ○ ○ ○ ● ● ●
安末久太之万豆良牟 (?○○○○○●●●?)	16才4	
安万久太良志牟 (?●●●●●?)	24才5	○ ○ ○ ○ ○ ○ ●
安万久太利万在牟 (○○●●●○?○??)	16才5	○ ○ ○ ○ ● ○ ● ● ● ●
阿磨佐箇屨 (アマサカル) (○○○○○●)	14才2	
毛、牟須比安万利 (○○○●●●●●●)	20才6	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○
毛、奴比安万利 (○○○○?●●●)	21才4	○ ○ ○ ● ● ● ● ●
阿弥 (○○)	14才4	
安女乃 (○●○)	10才2	○ ● ○
安女尔 (?○○)	24才2	○ ● ○

あもなるや〔天〕

あやし〔奇〕

あやしき

あらこ〔粗籠〕

あらは〔露〕

あらはす〔顕〕

あらはし

あらはる〔顕〕

あらはれ

あり〔有・在〕

あら

あり

安女乃 (○●○)

阿妹^{アマモ}奈^{ナル}屢^ヤ夜 (○●○○○●)

安也之支止利 (○○○○●●●●)

「」志岐宇豆乃 「」 ? ● ● ? ?

安也之支以支保比 (○○○○●●●●)

乎保末乃安良古 (○○○?○○●●●×)

安良波尔 (?●●●●)

阿羅幡貳 (○●×××)

安羅波之川留耶 (○●●●●?●●)

安良波礼津留 (?●●●●●?)

阿良須波 (○●○○●)

安良須 (○××)

安良須 (●●○○)

安利岐加 (?○○●○○)

43才3

14才3

3才6

31才6

49才3

42才3

17ウ5

27才4

18ウ4

19才6

10ウ2

43才2

46ウ1

32ウ3

○●○○

○○○○●●●●

○○○「」「」「」「」●●

○○●●●●

○○○●○○●●

○○●○○○

●●●○

あり

ある

あれ

ある
〔生〕

あれ

あれ
〔吾〕

あをひる
〔竹刀〕

い

いいなひめ
〔稲飯命〕

いかに〔何以〕

いかる〔怒〕

い
か
り

い
き
〔氣〕い
き
ほ
ひ
〔徳〕

阿利計利
○○●●

阿^ア
利^リ
(
○
○
)

安留加太知

安礼波加 (○○●○○)

阿礼万志奴 (○●●?)●

阿礼也

阿乎比江 (○?○×)

阿乎比江(○○○×)

以、奈比女 (●●●●?)

伊加牟尔 (○○●○)

以加利乎毛保天利之 (●●●●●○●○×)

以岐

以支保比
(\times ● ● ●)

55
才
1

54
ウ
6

37才5

38
ウ
6

16才5

18
才
5

27
ウ
227
ウ
360
才
358
才
2

5才5

31
ウ
1

49才3

●
●
●
●
○

○●●●●○●
〔但し「受」〕

☐ ☐ ☐ ☐ ☒ ☒

いく〔活〕

い
け

いこふ〔憩〕

い
く
へ

いしかは〔石川〕

いだす〔出〕

いだし

いたむ〔悽然〕

いたみ

いたる〔至〕

いたれ

いつ
〔威〕

いづ
〔出〕

いで

伊介玉恵 (○○×○)

伊古倍太万倍 (○ ○ ● ● ○ ●)

以^イ嗣^シ箇^カ播^ハ
(×××●)

以嗣箇播
イシカハ
(○●●●)

以太志、加八 (○ ○ ? ● ● ○)

伊太美弓(○○○)

以太礼留古止於

イツ

伊弓万須

伊弓万須美知 (○○○○○)

伊弓末須倍之 (○ ○ ● ● ● ?)

伊弓末須止支 (? : ? ○ ○ ● ●)

48
才
6

○
○
×
○

40
才
2

○ ○ ● ○ ○ ●

14
ウ
3

14
ウ
5

48
ウ
3

○ ○ ● ● ● ○ ●

38
ウ
6

22
才
3

●●○○○○●

9才3

9
才
4

•

18
才
1

☐ ☒ ☒ ☒ ☒

18
才
3

25
才
2

○ ● ● ● ○ ○

いふ言

伊幡毘々々

27
才
3

○
○
●

○ ● ● ○ ○ ○ ○ []

うす〔喪〕	うしほ〔潮〕	うしなふ〔失〕	うけ〔浮木〕	うきにまり〔浮渚〕	うかやそみ〔寛〕	うかかふ〔窺〕	う	いを〔魚〕	いろは〔母〕	いろね〔姉〕	いる〔入〕	いる
宇世尔太利 (●○●○?)	宇之保乃 (○●●○)	宇之奈比弓之 (●●●●●○)	宇介尔之弓 (●●●●?)	羽企尔磨梨 (●××○)	宇加也曾美尔 (?●●●?)	宇加、以 (●○?●)		伊乎止毛 (●●●●)	伊吕波 (○○○)	以吕称 (○○○)	井弓以留 (●●●○)	以礼万左之牟 (○?●●●●)
13 才 6	58 ウ 4	46 ウ 6	42 才 5	9 才 6	57 才 1	40 ウ 1		38 才 5	34 ウ 1	25 ウ 4	38 才 3	56 ウ 6
● ○ ● ○ ●	○ ○ ○ ○	● ● ○ ○ ● ○	● ● ● ○			● ● ● ○		● ● ● ●	○ ○ ●		● ○	

25
ウ 4
・
25
ウ 4

うそぶき〔嘯〕

宇曾布支須留曾(??○○○●○○)

57ウ4

○○○○|
●●●|
○○

うそぶく〔嘯〕

うそぶき

宇曾不支「」(○○○●「」)

58オ1

うそぶく

宇曾不久(●●●?)

58オ5

うたがはし〔疑〕

うたがはし

宇太加波之(●●●●?)

44オ5

●●●●|
●

うち〔内〕

宇知(○○)

42ウ5

●
○

うち〔氏〕

宇知(●○)

19ウ1

うちあぐみ〔踞〕

宇知安具美尔(○●○○○○○)

6ウ4

○
●○○○○○

うちやそみ〔寛〕

宇知也曾美尔(○??●○○?)

57オ1

○
●●●○○●

うづ〔威〕

宇豆乃古止毛(●??×●○○)

31オ6

うちしふ〔遷〕

うつしひ

宇津之比天(●●×●●)

26オ4

うつむろ〔無戸室〕

宇津牟呂(●●●●)

10ウ1

●●●●

うてな〔臺〕

宇弓奈(○×○)

42ウ3

○○○

うながす〔頸〕

うながせ

汗奈餓勢屢(○×●○●)

14オ3

うは〔上〕

宇巴津久尔、(●●●●●)

44オ3

●●

うらみ

波知字良美 (●●●●)

26
ウ
3

うるけぢ
〔癡騃釣〕

うるはし〔麗〕

うるはしく

うれへ〔憂〕

うれふ〔憂〕

うれへ

お

おき
〔沖〕

おきつかぜ〔沖風〕

おきな〔翁〕

宇留詠尔
(○ ○ ● ?)

于樓該膩 (○○○×)

宇留和之久之弓 (○○○○○×)

宇留和之久之弓 (●○○○○○)

宇礼倍
(●●?)

字礼倍太万布 (○●●●○)

字礼倍末之曾（●●●●●）

字礼倍万世利 (×●×●?)○

憶企都茂
オキツモ
(○
○
○
●
)

飢^オ企^キ都^ツ鄧^ト利^リ
 (○●×××)

乎支津加世 ○●●○○

世加津支乎

●●●
（ 平支奈 ）

51
ウ
3

55才3

13
ウ
5

42
ウ
3

38
ウ
6

34
ウ
3

37
才
451
才
1

34
ウ
4

54
才
2

57
ウ
5

57
ウ
5

41
ウ
5

おこす〔起〕	於己只太弓、(●×○○○○○)	23才4	● ○ ● ○ ● ● ●
おこし			
おす〔押〕	於之波奈津(●●●○●)	13才5	● ● ○ ○ ○ ●
おし	於志太礼天(●○×●?)	17ウ5	● ○ ○ ○ ● ●
	於志波奈礼(●●●●●)	18ウ6	● ○ ○ ○ ○ ●
	、(乎)之比良岐弓(●?●●●●)	37ウ6	● ○ ○ ○ ○ ●
おつ〔落〕	知里於知奈牟(●●●●?●●)	26才3	
おち			
おとなふ〔喧響〕	於止奈比之(???)	32才5	● ● ● ● ●
おとなひ	於止呂倍(○???)	47ウ4	○ ○ ○ ○
おとろへ〔落薄〕			
おはま〔小汀〕	於波末(●●○)	37ウ1	
おふ〔負〕			
おふ	於布(●●)	8ウ6	
おふすま〔追衾〕	於布不須万乎(●●●●●)	8ウ6	● ● ● ● ● ●
おほす〔仰〕			
おほせ	乎保世利(●○???)	44才3	末止己乃於不須万乎

おほし〔多〕

おほく

於保久之太加倍利 (??○●●●|
於保久末左札利 (●●×●●○●●)

42 ウ 5
56 ウ 4

○●
●●○●●●●○●●

おぼす〔思〕

おぼし

於保之弓 (○○?×)

10 オ 5

○●●

於保之天 (○○○○?)

25 ウ 4

○●●

於保之天 (○○○??)

25 ウ 4

○●●|

於保之奈也万左牟 (●○?●●●●●)

57 ウ 5

○●●●●

おほぢ〔大路〕

乎保知 (?×○)

50 ウ 3

おほばかり〔大葉刈〕

於保波加利 (○○××●)

5 ウ 1

おほはる〔溺〕

於保八礼 (●○|○)

44 ウ 5

○●●

おほはれ

乎保末乃 (???○)

42 オ 3

○●●○

おほぼる〔溺〕↓ おぼはる

於保美乎 (○○○●●)

44 ウ 4

○●●○

おほみ〔大濤〕

於保利乃 (?●●●●) ※「ソホリ」か

33 オ 6

○●●●●

おほり〔添〕

ヲホリノ (?○?×)

33 オ 6

○●●●●

おもぼてる〔慍色〕

か

おもぼてり

および〔及〕

およぶ〔及〕

およびて

おる
〔織〕

おる

か
〔彼〕

か
〔香〕

かうふる〔蒙〕

かうふり

かかやく〔輝〕

か
か
や
け

かかる〔懸〕

か
か
り

かきは〔堅岩〕

於毛保弓利之弓 (? ● ● ● ○ ○ ○)

乎与比

乎与比天

於留乎止女 (●●●?×●)

何乃〇〇

加字留和之久之弓 (●●○○○○○○)

加字不利弓

弓利加、也介利

加利弓

可岐巴乃 (●●●?)

58才6

23
才
4

39
ウ
2

34
才
1

12
ウ
2

42
ウ
3

40才5

37
ウ
3

50
才
5

26
才
1

●
●
●

●●○●

●
●
●
●
●

○●●○●

●●●●

かきまみる〔垣間見〕

かきまみ

かく〔斯〕

加支末美太末布 (●●●●●○?)
加久寸留 (○○○?)53ウ2
17ウ6

加久乃 (●○○)

18才2

カクネンコロナリ (●?××××××)

21才6

かく〔搔〕

加支伊弓天 (○?●●●)

17ウ5

○●●○●●

かく〔懸〕

かき

可計天 (??●)

22ウ6

○●●●

かくる〔隠〕

かけ

加久礼万加奈牟 (○○○○×○○○●)

8才6

○●●○○○●●●

かぎなみ〔風波〕

かぜ〔風〕

乎支津加世 (○●●○○○)

57ウ5

○●●●●●

倍太加世 (○○○?)

57ウ5

○●●○●

かたち〔形〕

可多知波 (●●●●●)

9才5

●●●●●

加太知 (●●●)

29ウ1

●●●●

安留加太知 (○○○○●●)

37才4

○●●●●●

かたふち〔片淵〕

箇拖輔智 (○●●○●)

14ウ3・14ウ5

○●●●●●

かへす〔還〕

加倍志也 (? ○ ○ ●)

4才3

28
ウ
131
ウ
224
才
519
ウ
1

50
ウ
4

22
ウ
4

4才4

12
才
13
才
4

5才4

5才4

37
才
542
才
614
ウ
3

かもづくしま
〔鴨着嶋〕

からと〔乾迹〕

かる
〔狩〕

かる

軻茂豆句志磨
(○ ○ ○ ● ● ○)

加良戸

加留

54
才
241
才
549
ウ
6

ち

きく
〔聞〕

ルル

きく

きんゆう 〔聞〕

附

きさりもち〔持傾頭者〕

きじ
〔雉〕

きたかつら
〔来居杜〕

きたなし〔汚〕

いたなき

きはまる〔窮〕

岐、与久毛
(○ ○ ● ? ○)

支久尔
(●×●)

支古由 (●●○)

記左里毛知止須 (○●●●●●●●)

岐之(●●)

支太加津良 (●●●●)

岐太奈岐古、呂
(●●○●×××)

29
ウ
2

20
ウ
2

4
才
4

4
ウ
1

3才3

3才6

12
ウ
3

●●●○

⋮

●
●
○

○
●
○
○
●
×
×

※支太天加津良

○ ○ ○ ● ○ ○ ●

きはまり
きみ〔君〕

きる〔切〕

きり

きる

く

く〔来〕

き

くしひ〔霊〕

くだく〔碎〕

くだけ

くだす〔下〕

くだし

支八末利世末留 (○ ○ ○ × × × × ●)

支美 (● ●)

岐美 (○ ●)

岐美 (● ●)

企弼 (● ●)

支利不須 (× ● ○ ●)

岐留 (● ●)

48
ウ 5

6
ウ 5

11
オ 5

52
ウ 6

54
ウ 6

5
ウ 2

27
ウ 3

○
○
●
○
○
○
○
●

●
●

●
●

●
●

○
●
○
●

●
●

12
ウ 2

31
オ 6

46
オ 4

16
オ 5

●
○
○
○

●
○
○
○
○
●
●
●
●

※久古之万豆良牟

くに〔国〕

久尔 (●×)

11才5

●●

久尔 (●●)

24才4

●●

久尔 (?×)

15才6

●●

久尔 (○○)

21才5

●●

久尔 (●●)

44才3

●●

久保田 (?●●)

52才4

●●|○

久未知於 (○○?)

47才2

○●●|●

久万弓尔 (○○●●)

8才5

○●●|●

矩磨渥 (●●●)

8才6

○●●|○

ク末和尔 (?末○○)

45才6

○●●|○

久牟津加美 (●×○○○)

3才5

●●●|×

久留之比 (○○○○○)

44才3

○●●|○

け

けがす〔汚〕

けがす

けがらはし〔汚穢〕

介加須古止 (●●○×○)

58才2

○●●●●●●●

介加良波之支古止 (○●●●●●?)

5才6

○●●●●●●●

こ

こ〔子〕

こ〔木〕

こ〔籠〕

こ〔此〕

こ〔是〕

こころ〔心〕

こと〔言・事〕

古尔 (●●)

古乎 (●●)

古尔 (●●)

古尔 (○●)

古乃 (●●)

古 (●)

古乃 (○●)

古乃 (●●)

古乃 (●●)

己、尔 (○●?)

古、尔 (○●?)

古、吕乎 (●●●●)

古、吕乃 (○●●●)

己止乎 (○●●)

古止 (●●)

古止 (○●)

39ウ2・40オ5・40ウ1・

10ウ2

16オ4

23ウ4

24オ1

27ウ3

40ウ3

25オ4

42オ4

42オ4

25オ1

37オ3

12ウ4

47オ5

3オ2

10ウ3

11ウ3

●●

●●

●●

●●

※美古乃

●

○●

●●

●●

●●

○●

○●

○●

●●

○●

こふ〔請〕	こひ	こまむ〔拒・有強禦〕	こまみ	これ〔是〕	ころす〔殺・斬戮〕
古伊太万布止古呂 (○○○○○?○○○○)		古末美布世久 (○○○○○?●)	古礼 (●●)	古礼 (●○)	己呂須 (●●●)
25 才 4	16 才 1	32 ウ 3	43 ウ 2	44 才 5	21 ウ 6
●●●●●●●●	○●●●●●●●	○●●●●●●●	●●●●●●●●	●●●●●●●●	●●●●●●●●
このはなさくや〔木花開耶〕	このかみ〔首渠者〕	ことごと〔盡〕	こと〔異〕	古止波 (??●)	古止 (○?)
古乃波奈佐久也 (○○○○?●●●●?)	古乃加美 (●●●●○)	據鄧馭鄧 (●●××)	古止尔之弓 (?○○○○○)	古止 (×○)	古止 (×○)
25 才 4	22 才 1	54 才 3	32 才 5	58 ウ 2	51 才 2
●●●●●●●●	●●●●●●●●	●●●●●●●●	○●●●●●●●	○●●●●●●●	○●●●●●●●

ち

さかさま〔倒〕

さかしま〔倒〕

さかゆ〔栄〕

さかえ

さき
〔先・前〕

さきだつ
〔先立〕

さきだつる

さく
〔開〕 \sim

さねどこ〔さ寝床〕

さばへ〔五月蠅〕

さま
〔様〕

さる
〔去〕

左加左万尔 (●●●●)

左加之万尔
（● ● ● ●）

在加衣牟古止 (? ● ? ● ● ○)

「 支尔 (〇 〇)

左岐乃

左支乃 (●○○)

左岐太津留 (●●●○)

古乃波奈佐久也 (○○???)

佐^サ祢^ネ耐^ト據^コ
(●●×●)

左波倍奈須(？○○○○)

左末
(○○)

43
才
66
ウ
3

17才3

6
ウ
4

19才2

40
才
4

33
ウ
6

25
才
4

34
ウ
4

32
才
632
才
6

●
●
●

●
●
●

●●●●●

● ● ○ ○ ● ● ●

● ● ● ○ ●

●●

さり

左利末津良牟也 (×○●×●●●●)
 左利太万不倍久也 (×●●○×●××●)
 サリナムト (去×去●?)

6ウ6
 7ウ2
 21ウ4

●●
 ○○
 ○○
 ○○
 ●○
 ○●

し

しこめし〔凶目〕

しこめき

しし〔獅子〕

したがふ〔従〕

したがは

したがひ

志古女岐乃 (○○○○○)
 志、乎 (???)

15才6
 49ウ6

○
 ○
 ○
 ●

志太加波奴 (●●●●●)

21ウ6

●●●●
 ●●●●

志太加比奈牟 (●●●●●)

39ウ2

●●●●
 ○○
 ○○
 ●

志太加比 (●●●●●)

39ウ6

●●●●
 ○

之太加比奴 (???×●)

49才3

●●●●
 ○●

志太加比奈牟止須 (???●●●●●?)

58才6

●●●●
 ●●○
 ○○
 ●○
 ○○
 ●

志太加布 (???●●)

52ウ2

●●●●
 ○

したがふ

志太加布比止 (●●●●●?)

21ウ6

●●●●
 ○○

したがふ

志太加不比刀 (???●●●●)

22才1

●●●●
 ●●
 ○○

したがへ

之太加倍利 (○●●○○●)

42
ウ 5

●●●●○●

したがふ〔従〕

したがへ

之太加倍天 (●○○?○○?)

23
ウ 1

●●●●○●

しづまる〔鎮〕

しづまり

井之津末利奴留止岐 (●○○○×○○○??.?)

38
オ 3

●○○○●○○●○○○

しづむ〔鎮〕

しづめ

之豆女之牟 (×○○●●●●)

6
ウ 6

○●○○●●○

しつりがみ〔倭文神〕

斯首利我未 (○●○○○○)

8
ウ 4

○○○○○●

斯圖梨俄未 (○○○○××

8
ウ 5

○○○○○●

しばらく〔暫・俄〕

志波良久 (○○○○?)

26
オ 4

○○○○○●

しほみちのたま〔溢瓊〕

塩美知乃玉 (×○○●○○×

48
ウ 3

×○○○○×

しみづ〔清水・好井〕

志美津 (?●●●?)

45
ウ 6

○○●●○

しらたて〔白楯〕

之良太手 (?●●●?)

21
オ 4

○○○○○●

しりうたぐ〔踞〕

志利宇太介弓 (○×○○●●●)

6
ウ 4

○○○○○●

しりうたげ

志利宇太介弓 (○×○○●●●)

6
ウ 4

○○○○○●

しりぞく〔退〕

志里曾介須之天 (○●●●○○○)

25
ウ 6

○○○○○●

しりぞけ

志里曾介須之天 (○●●●○○○)

25
ウ 6

○○○○○●

しる〔知〕

志里曾介須之天 (○●●●○○○)

25
ウ 6

○○○○○●

しら
しろす〔知〕
しろし

す

す〔為〕

せ

して

として

にして

志「」之牟(「」○○●)

伊弓之呂之奴(○○○○●●)

牟須比尔世牟(●●●●●●●●)

安曾比之弓(●●●○○●)

美手之呂止之弓(●●●●●●●●)

宇留和之久之弓(●○○○○○○○○)

太布佐岐之弓(●●●●●●●●)

美知比岐止之弓(○○○○○○○○●)

美手之呂止之弓(●●●●●●●●)

古止尔之弓(●○○○○○)

左末尔之天(○○○○●)

宇介尔之弓(●●●●●●)

止毛之火仁之弓(●●●●●●●●)

29ウ 1

●●●○

34ウ 1

20ウ 6

15ウ 5

22ウ 6

42ウ 3

58ウ 1

21ウ 5

22ウ 6

32ウ 5

32ウ 6

42ウ 5

45ウ 5

●●●××

○○○●●●○

●●●●●●○

○○●●●○

●●●●○

○○○●●○

す

宇弓奈須 (○×○●)

42ウ3

とす

加奈太久美止須 (●●●●●●●●●●)

22ウ4

しめむとす

由宇津久利止須 (●●●●●●●●●●)

22ウ4

なむとす

支美太良之女牟止須 (●●●●●●●●●●)

6ウ5

する

志太加比奈牟止須 (●●●●●●●●●●)

58才6

する

加久寸留己止波 (○●●●●●●●●●)

17ウ6

するぞ

宇曹布支須留曾 (○●●●●●●●●●)

57ウ4

するに

千加古止須留尔 (●●●●●●●●●●)

34ウ1

するを

津利須留乎 (●●●●●●●●●●)

7才3

むとする

万在牟止須留 (○●●●●●●●●●)

16才5

加倍利玉比奈牟止須留尔

39ウ2

古宇末牟止須留 (●●●●●●●●●●)

40才5

曾古奈波牟止須留 (●●●●●●●●●●)

47ウ5

須久礼太留奈利 (●●●●●●●●●●)

2才1

すぐる〔優〕

須久礼太留以岐 (●●●●●●●●●●)

31ウ1

すすのみち

須、能美賦 (●●●●●●●●●●)

55才2

〔跟鰲釣〕

55才2

須、能美賦 (●●●●●●●●●●)

55才2

せむ〔責〕

せめ

世女波太留 (●?○○●)

37
才 1○
●
○
○
●

そ

そ〔其〕

曾乃 (●●)

17
ウ 5・36
ウ 5・53
ウ 2●
●

曾乃 (??)

15
才 6●
●

曾乃 (?)

33
ウ 2●
●

そこなふ〔損〕

そこなは

曾古奈波牟 (????●)

47
ウ 5○
○
○
○
●

そこなふ

曾古奈布古止 (○?○●●○)

10
ウ 3○
○
○
●
●
○

そなはる〔備〕

そなはり

曾奈波利弓 (○○●●○)

37
ウ 2○
○
●
○
●

そなふ〔供〕

そなへ

曾奈倍弓 (?○●●)

50
ウ 5○
○
●
●

そふ〔添・副〕

そへ

曾倍弓 (●●●)

16
ウ 5●
○
●

そふ

曾布於

58
ウ
1

た

太加、岐 (○○×○)

太加之万 (? ○ ○ ●)

太加止乃 (○●?)

大加波良 (○●○?)

多伽避顧弥
タカヒコネ
(○ ○ ● ● ●)

太加牟奈左加 (○?●●○)

太加牟奈左加（●●●●●）

多歌武娜娑歌 (○ ○ ● ● ○ ○)

多可武奈波加 (???)

たたし

陀志 (○○●)

9
ウ
1

たらすむ
〔佇〕

たたすむ

太、須牟

37
ウ
5
・
41
ウ
5

ただひと〔凡人〕

太、人（? ? ×）

43才2

○ ○ | ×

ただま〔手玉〕

手太末（? ○ ○）

34才1

○ ○ | ○

たたみ〔畳〕

太、美（? ? ●）

38才3

● ● ●

たち〔太刀〕

太知（× ○）

36ウ5

○ ○

たつ〔立〕

太知毛止保利（○ ○ ? ? ● ○）

50才5

○ ● ● ● ● | ○

たち

太弓留（○ ● ○ ○）

3才4

○ ● ○

たつ〔立〕

たて

太天之（○ ○ ○ ●）

6ウ3

※太天弓（○ ○ ○ ●）

太天弓（○ ○ ○ ×）

16才1

○ ● ●

たつる

左岐太津留（? ? ? ● ○ ○）

33ウ6

● ● ● ● | ●

たてまつる〔奉〕

たてまつる

万加世太天万津留倍之（● ● ● ● ○ ○ ○ ? ? ● ● ●）

24才1

○ ○ ○ ● ● ○ ○ ● ● ● ● ● | ○

太天万津留（? ○ ○ ○ ○ ○）

25ウ3

○ ● ● ● ○

たなしし〔櫛完〕

太奈之、乃（× × ● ● ○ ○）

9ウ1

● ● ● ● ●

たなばた〔七夕〕

多奈婆多（● ● ● ● ○ ○）

14才3

たひらぐ〔平〕

ち
〔鉤〕

知乎

8才5

○ ○ ○ ○ ○ ● ●

36
ウ
5

●●

ちかひこと〔誓〕

於止呂倍知 (○??.?.?)

47
ウ 4

千加「」古止 (●●●「」●●●)

34
ウ 1

ちぎり〔契〕

知岐利 (??●)

19
オ 2

知支利 (●●●)

40
オ 4

ちち〔父〕

知、(?○)

24
オ 5

ちどり〔千鳥〕

播磨都智耐理譽 (○●○○○×××)

34
ウ 5

ちはやふる〔千早振・残賊強暴〕

□波也布留 (○●●×○)

11
オ 6

ちひさし〔小〕

知比左岐 (●○○○)

38
オ 5

ちる〔散〕

知里於知奈牟 (●●●●●?)

26
オ 6

●
○
○
○
●

っ

つかひひと〔使人〕

也津古津加比、止 (?●?○??.?○)

59
オ 4

○
○
○
●
●
●
●
●
●

つかまつる〔仕〕

豆加万津流 (●●○○●?)

21
ウ 3

●
○
○
○
○
○

津加末津留 (●○○●○○)

43
ウ 5

●
○
○
●
○
○

つきめ〔春女〕	津支女止須 (○●○○○●)	4	ウ	2	○●○○〔〕×
つく〔漬〕	津久止支尔 (○? ? ○●)	58	ウ	4	×●○○○●
つく	津久恵毛乃 (●●●●●)	50	ウ	5	●●●●●
つくえもの〔机飲食〕	津久良牟 (●●●●●)	21	オ	4	○○○○●
つくる〔造〕	津久利万豆良牟 (●○○●●? ●●)	20	ウ	5	○○○○●●●●
つくら	津知尔 (○○○×)	6	ウ	3	○●●
つくり	津、加奈介牟 (●●●○○○×)	12	ウ	4	●●●● ○○○
つち〔土〕	つがなし〔恙無〕	21	オ	2	○○○○●●●●●●
つつがなし	つどふ〔集〕	22	オ	2	○○○
つどふ	つはく〔唾〕	57	ウ	2	○○○●●
つはく	つり〔鉤〕	7	オ	3	●●

て

てる〔照〕

てり

てれ

と

とき〔時〕

ときはかき〔磐垣〕
 とこふ〔詛〕

弓利点 (○?●)

弓利加、也介利 (○●●●●●)

、(弓) 礼利 (×●●●)

止岐 (●○)

止岐 (●?)

止岐 (●●)

止岐尔 (●○●●)

止支尔 (×○?)

止支尔 (?○●)

止支乃 (●●○)

止岐巴可岐 (○●×●?)

17
ウ 137
ウ 343
才 638
才 339
ウ 340
ウ 140
才 645
ウ 558
ウ 460
ウ 426
才 1

○ ●
● ●
○ ●
● ●
● ●
○ ●
● ●

○ ○
○ ○
○ ○

○ ○
○ ○
● ●
● ●
● ●

とこひ	止古比以波末久 (●●●●●●●●●●)	44 ウ 2	●●●●●●●●
ところ〔処〕	止古呂乎 (○○○?)	16 才 1	●●●●
	止古呂乎 (●●●●●)	20 ウ 2	●●●●
	止古呂乎 (●●●●○)	33 ウ 2	●●●●
とし〔年〕	止之 (○○○)	60 ウ 3	○○
ととのほる〔調〕	止、乃保利 (○○●○○○)	37 ウ 2	○○●●●○
ととのほり	止比良乎 (?○○●●●)	37 ウ 6	●●●●
とびら〔扉〕			
とふ〔問〕	止比太万倍 (●●●●?○)	25 ウ 1	●●●●●
とひ			
とほし〔遠〕	止保久与利 (●●●●?●)	5 才 6	●●●●○
とほく			
とほしろし〔大〕	止乎之呂久 (○?●?○)	38 才 5	○○●●○
とほしろく	止保津乎也 (●●●●●)	16 ウ 4	●●●●
とほつおや〔上祖〕			
とほる〔通〕			
とほり	止保利旦 (○○○●)	3 ウ 2	○○○●
	止於里天 (●?●●●)	24 ウ 4	

ながし〔長〕

ながき

なく〔泣〕

なき

なげく
〔嘆〕

なげく

なし
〔無〕

なす〔成〕

なす

なづく〔号〕

なづく

なやます〔悩〕

奈須弓太末比曾（●●○○●○）

奈加尔

奈加与利

奈加尔

（●●○○）
奈加岐乎

奈支加奈之布 (●●●●○)

奈介久

奈、之(○ ○ ●)

末奈之

与之奈之（?・?・〇〇）

左波倍奈須(? ○ ○ ○ ○)

奈津久 (●●○)

47
ウ
2

42
才
431
才
142
才
426
才
1

5才6

38
ウ
4

3才3

37才5

58
才
232
才
6

15才1

○ ● ○ ○

● ○ ● ● ● ○

○ ○ ●

●
●
○

○
○
○

●●○●

● ● ● ○ ●

● ● ○

なやまさ

なよし〔鰯魚〕

なる〔成〕

なり

なる

なる〔鳴〕

なる

に

にくづ〔丹鳥〕

にはなひ〔新嘗〕

奈也末左礼弓(???)

奈也万左牟(●●●●)

奈与之(???○)

那里伊豆留(○○○●)

ナリイツル(○○○●去)

奈利奴(●●○)

奈留万弓(○○●●)

奈留神(×●×)

仁久津(○○○|)

尔和奈比之弓(●●●●○)

39ウ6

○○○●●

57ウ5

●●○

57オ5

●●○

27オ1

○○○●

27オ2

○○○●

38ウ3

○○●

11ウ3

○○●|

17ウ2

○○○●

35オ6

○○○|

4オ2

●●●●○

ね

ねがひ〔願〕

ねがふ〔願〕

ねがふ

ねがふ

ねさく〔根裂〕

ねなき〔鳴聲〕

ねふす〔休臥〕

ねふせ

の

のぞむ〔臨〕

のぞみ

のたまふ〔宣〕

のたまひ

のたまふ

衿加比乃 (○○?○)

衿加不 (●●○○)

子 衿加波久波 (●●●●?)

衿沙具 (●○○●)

衿奈岐 (●●●●)

衿布世留止支 (●○○○○○×)

乃曾弓 (●●●●)

乃太万比天 (●●○○●●)

乃太万不美已止 (●●○○○○?●●)

40才2

○○○|

19才5

○○○●

23才5

○○|●●●●

5才6

○○●●

12才4

●●●●

4才2

●○○●○○○

40才6

●●●●

12才2

●○○●●●

21才6

●○○○○●●●●

のぼる〔上・昇〕

のぼり

のぼる

のむ〔呑〕

のめ

は

はた〔機〕

はた〔将〕

はたる〔徴・責〕

はたる

はち〔辱〕

はづ〔恥〕

はぢ

乃太末波久 (●●●●●)

乃保利奴 (○●●●○)

乃保留 (●●●×)

乃女留敷 (○●●●○)

波太 (●●○)

巴太 (●●○)

波太留 (○●●○)

波太留 (○●●○)

波知 (○●○)

波知弓 (●●○)

波知宇良美 (●●●●●)

51
ウ 2

●
○
●
●
●

24
ウ 2

●●
●○
○

48
ウ 4

●●
●○

44
オ 5

○
●
○
●

34
オ 1

●
○

18
オ 5

●
●

36
ウ 5

○
○
●

37
オ 1

○
○
●

59
オ 3

○
○

25
ウ 6

○
●
○

26
ウ 3

○
○
×
×
×

はらふ〔払〕

波良世之牟 (○●●○)

15
ウ
3

○ ○ 巴 ○ ●

はらひ

はらむ〔孕〕

はらま

はらみ

はらめ

はる〔張〕

はり

はる〔脹〕

はれ

ひ

ひかり〔光〕

ひきゐる〔率〕

ひきゐ

ひこさしり〔彦狭知〕

波良比之豆女之牟 (●●××○○●●)

6
ウ 6

○○○●○○●●

波良万世牟 (○○●?××)

10
オ 6

波良美奴 (○○○●●)

10
オ 4

○○○●●

波良美奴 (○○○●●)

25
ウ 5

○○○●●

波良女利 (●●●●●)

34
オ 5

○○○●○○

播利和拖嗣^ハワ^タシ (×○○●●)14
ウ 4

波礼利 (●●○○)

37
ウ 4

●●○

比加利 (○○○●)

13
ウ 5

○○○●

比訶利 (×○○)

54
ウ 5

比支伊弓 (●○○○)

22
オ 6

●○○○

比古作之里乃 (●●●●××)

22
ウ 3

●●●○○××

ひもがき
〔姫垣〕

比母加支

※比女加支 (●●●○)

ひもろき〔神籬〕

↓

ひもろき

ひもろき〔神籬〕

比毛留岐 (●●●●●)

23才 4

○●●●●

ひらく〔開〕

ひらき

比良岐由加牟 (●●●●○●●?)

18才 6

●○●●●●●

比良岐弓 (●●●●●)

37才 6

ふ

ふく〔葺〕

ふき

ふすま〔衾〕

不支安八世左留 (×××?○?○×)

45才 5

●○●●●●○●

ふせぐ〔防〕

ふせぐ

ふた〔二〕

布世久毛乃 (??●)
フセグワタラス
輔拖和拖還須 (×●●●×●●●)

32才 3

○●●●●

不太波之良 (●●●○●●●)

36才 1

●●●○●●●

ふたはしら〔二人〕

不太波之良 (●●●○●●●)

36才 1

●●●○●●●

ふとだすき〔太櫛〕

布止太須岐 (×○●●○●●)

22才 6

○●●●●●

ふなのへ〔船舳〕

不奈乃倍 (●○●●●)

7才 4

○●●●●

ほぐ〔祝〕

ほ〔穂〕

ほ〔火〕

ほ

へたかぜ〔辺風〕

へ〔辺〕

へ〔舳〕

へ

ふむ〔踏〕
ふみ

ホノ(? ○)

褒能須素里 (○ ○ ○ ● ○)

保乃須素里 (○ ○ × ● ●)

33
才 410
ウ 510
ウ 5

※保乃太介素里 (○ ○ ○ ● ● ○)

倍太加世 (○ ○ ○ ?)

陛^へ尔^へ幡 (○ ● ●)

不奈乃倍 (? ○ ○ ●)

浮那能倍 (○ ○ ○ ●)

57
ウ 534
ウ 47
ウ 47
ウ 4○
○
○
● |○
○
○
○
●

布美左介比弓 (● ○ ○ ○ ○ ?)

布美太介比弓 (● ? × × × ×)

30
才 630
才 4●
○
○
○
○
● |

浮那能倍 (○ ○ ○ ●)

7
ウ 4

ほぎ

保岐豆 (●●●●)

23
ウ 3

●●●●

ほぞ〔臍〕

保曾於 (●●●●)

27
ウ 3

●●●●

ほとほり〔火熱〕

保止保利 (○○●●●)

30
ウ 4

○○○○

ほのすそり〔火闌降〕

保乃須素里 (○○○×●●●)

10
ウ 5

※保乃太介素里 (○○○○●●○○)

ほのほ〔炎〕

保乃保 (○○○●)

32
オ 5

○○●

ほむ〔褒〕

保牟 (○●)

22
オ 1

○●

ほゆ〔吠〕

保由流伊奴 (○○○●○○○)

49
オ 5

○○○●○○○

ほゆる

保呂比奈牟 (●●○××)

10
ウ 3

●●●○●

ほろぶ〔滅・亡〕

保呂比奈牟 (●●○××)

10
ウ 3

●●●○●

ほろび

保呂比奈牟 (●●○××)

10
ウ 3

●●●○●

ま

ま〔目〕

万乃安太利 (○○○?●○○)

17
ウ 3

○○○●●○

末奈之 (●●●●)

37
オ 5

○○○

まうく〔参来〕

☐ ☐ ☒ ☐

○ ○ ● ● ● ● ●

○○○○

☒ ☒ ☐ ☒

○
○
○
●

まされ

末左礼利 (●●●○●)

56
ウ 5

●●●○●

まじこる〔蠱〕

まじこれ

万志古礼奈牟 (●●●●×○●)

12
ウ 4

●●●●○●

まします〔坐・在〕

ましまし

末止、、弓 (○●●?・?○)

37
オ 3

●●○●●●

ましませ

末之末世留加奈 (●●●?●○○○●)

29
ウ 2

●●○○○○●●

ます〔坐〕

まし

奈宇礼倍末之曾 (●●●●●●●●●●)

37
オ 4

●●●○○●●●○|

ます

末須止支 (●●●●●)

60
ウ 4

●●●○○

ますすのみち〔跟鰲釣〕

ますます〔益々〕

末須、、(?)●??)

57
オ 3

●●●××

また〔亦〕

万陀 (●○○)

7
オ 6

●○○

末太 (○○○)

37
オ 4

●●○

末太 (???)

45
ウ 5

●○○

万太 (●●●)

46
オ 6

●○○

まだ〔未〕

万太加良末之(?)○×○?○)

26
オ 1

○●

まち〔貧窮〕

末知 (○○●)

44
ウ 2

○●

まつ〔待〕

●●○●○

み

みかき〔御垣〕

みこと〔尊・御言〕

みさかり〔盛〕

みささき〔御陵〕

みじかし〔短〕

みじかき

みす〔見〕

みせ

みすまる〔御統〕

みぞ〔御衣〕

みた〔御田〕

みたに〔御谷〕

みたび〔三度〕

みち〔道・術〕

美加支 (●●×)

知、乃美古止 (●●○○○?)

美古止 (●●●)

美左加利尔 (●●●●●)

美左左岐 (●●●●●)

美志加岐 (●●●●●)

美世津 (●●●)

弥素磨屢 (●●●×●)

美曾乃 (●●●)

美田 (●●●)

弥多尔 (●●●×)

三太比 (●●●●)

美知尔 (●●●●)

美知乎 (●●●)

24
ウ 649
才 524
才 534
ウ 140
ウ 111
才 426
才 559
才 314
才 424
ウ 121
才 214
才 557
ウ 218
才 118
才 6×
●
○○
●
○
●
●
●●
●
●●
●
●
●
●●
●
●
●○
○
○
●○
●
●●
●
●●
●●
○
○●
●
●●
●
●

み

(●○)
 ●
 ○
 ○
 ?
 ○
)

\times
 \bigcirc
 \bigcirc
 \bigcirc

む

むすび〔結〕

むすぶ〔結〕

むすば

むすめ〔娘〕

むつまじ〔睦〕

むつまじき

むなくに〔空国〕

むなそふ〔胸副〕

むなち〔胸乳〕

むね〔胸〕

奈美末之曾 (●●●●○)
 美天 (○?)

毛、牟須比 (○●●●●)

牟須波牟 (●●●●●)

牟須女 (●●●●)

牟津末之支 (●●●●●)

牟奈久尔 (●●●●●)

牟奈曾布 (●●●●●)

牟奈乳 (●●●●)

牟祢与利 (●×●●○)

45才4
54才6

20ウ6

40ウ4

34才2

40ウ4

9ウ1

24ウ4

17ウ5

3ウ2

●●●●○

○
○
○
●
○

●
●
○

●
●
●
●
●

●
●
●
●

●
●
●
●

●
●
●

●
○
●
○

も〔藻〕

もえくし〔火燼〕

もこよふ〔透蛇〕

もつ〔持〕

もち

もと〔元・故〕

もとほる〔廻〕

もとほり

もの〔物・者〕

もはら〔専・全〕

もも〔百〕

茂幡^{モハ} (●●)

毛江久志 (●●●?)

毛古与不 (?○○●●○)

毛知豆 (○○●?)

毛止太留毛乃 (○○●●●●●●●● [一])

毛止乃 (○○○●)

毛止乃 (○○?○)

毛止尔 (●●?●)

毛止仁 (○○●●●)

太知毛止保利 (○○○?●●●○○)

毛乃奈里 (●○○○●)

美曹乃毛乃 (?○?●●○○●)

布世久毛乃 (?●●●●●●●)

毛乃 (?○)

毛波良 (?●●●)

毛、 (○?)

34ウ 4

31才 1

45才 6

7才 3

23才 2

36ウ 5

44才 2

47才 5

49才 5

50才 5

23才 2

24ウ 1

32ウ 3

43才 4

45ウ 4

8才 5

●●●●○

●●●●○

○●●●●

○○○●○○○

○○○●

○○○●

○○○●

○○○●

○●●●●●●●

○○○●○

●●●●●○

○○○●●●○

○○○

●○○○

○○○

や

ももとり〔百取〕
 ももぬひ〔百縫〕
 ももむすび〔百結〕
 もや〔喪屋〕

やから〔族〕
 やく〔焼〕
 やけ

やそ〔八十〕

やそくま〔八十隈〕
 やそつづき〔八十連〕

モ、トリノ (? ● ? ● ●)
 毛、止利乃 (○ ? ● ● ○)
 毛、奴比 (○ ○ ○ ?)
 毛、牟須比 (○ ? ● ● ●)
 毛也乎 (● ● ●)

也加良 (○ ○ ○)

也介曾古奈布古止 (● ○ ○ ? ○ ● ● ● ○)
 也介保呂比奈牟 (× ○ ○ ● ● ○ × ×)

也曾 (去 ○)

也曾 (○ ?)

也曾 (? ●)

也曾 (? ○)

也曾久万 (去 ○ ○ ●)

也曾津、支 (● ● ● ● ●)

25 ウ 3 ○ ○ ○ ● ● ○ ○
 50 ウ 5 ○ ○ ○ ● ● ○ ○
 21 オ 4 ○ ○ ○ ● ● ○ ○
 20 ウ 6 ○ ○ ○ ● ● ○ ○
 5 ウ 2 ● ● ●

6 オ 3 ○ ○ ○

10 ウ 3 ● ○ ○ ○ ○ ● ● ● ○ ○
 10 ウ 3 ● ○ ○ ○ ○ ● ● ● ○ ○

8 オ 5 ● ○

20 ウ 6 ● ○

21 オ 4 ● ●

47 ウ 2 ● ●

8 オ 5 ● ● ● ○

60 オ 1 ● ○ ○ ○ ○ ○

やそぬひ〔八十縫〕

也曾奴比乃 (●●●●●●●●)

21才4

●●●●●○

やちまた〔八衢〕

也知万多尔 (?●●●○□)

17才5

●●●●○●

やつこ〔奴〕

ヤツコハ (●●●○○)

10才3

●●●○●

也津古 (○●●?)

59才4

○●●●

やつめ〔八目〕

也津米 (●●?)

28才1

●●●●

やつる〔檻樓〕

也津礼天 (○○●●●)

8才1

○●●●●

やとせ〔八年〕

也止世 (●●●●●)

11才3

●●●●●

やへあをふしかき〔八重蒼柴籬〕

也倍阿乎布之加岐 (●○○●●●●●●●●)

7才3

●●●●●●●●○●

やま〔山〕

於保利乃也末 (●●●●●○?)

33才6

●●●●●●●●○●

やむ〔止〕

也牟 (???)

58才5

●●●●●●●●○●

やむ

也牟 (???)

59才1

●●●●●●●●○●

やむことなし〔止事無〕

也牟古止奈止 (×●○○●●●?)

59才1

●●●○○●●●

ゆ

ゆく〔行〕

ゆき

由支豆 (●○○●)

7才2

●○○●

よし〔寄〕

よそふ〔装〕

よそひ

よそほひ〔装〕

よづ〔攀〕

よぢ

よる〔寄〕

より

よれ

よろこび〔欣慶〕

わ

わ〔我〕

わかし〔若〕

与岐古、呂 (○?●●●●)

与支和左 (●?●●|)

妹慮メロ豫嗣ヨシニ尔 (●●●●●)豫嗣ヨシ (●○)譽贈ヨソヒシ比志 (○×○○○)

与曾乎比 (○○○●○)

与知加、留 (×○○○○●)

豫利ヨリ據コネ祢 (●○×○)譽戾ヨモ耐マデ母トモ (●○○○×)

与呂古比 (○○○○○)

12
ウ 4

○●心○

58
オ 3

○●●●|

14
ウ 414
ウ 554
ウ 613
ウ 5

○○○○

13
オ 5●○|
○○○●14
ウ 534
ウ 447
オ 5

○○○○|

54
オ 2

和我 (○●)

60
ウ
3

59
ウ
5

32
才
658
才
3

49
才
1

40
才
154
才
3

14
才
5

50
才
5

45
才
646
才
4

われ〔我〕

ゐ

ゐ〔井〕

ゐる〔居〕

ゐ

ゐる〔率〕

ゐ

ゑ

ゑむ

ゑめ

和礼（?○）

井ノ（?●）

井天（●○）

井太万比奴（●?●○●）

井弓以留（●●●○）

恵女^{（朱筆）}留於（●?●○）

59才3

※安礼

43才6

○
○

6ウ4

●
○

57才2

●
○
○
●
●

38才3

●
●
●
○

43才6

●
○
○
○

を

を〔緒〕

をぢ〔烏賊〕

をとめ〔少女・乙女〕

をみな〔女〕

をり〔居〕

をり

をり

をる

保曾於 (●○?)

曾布於 (●○●)

烏賊 (●●)

乙登女略 (●××)

乎止女 (●●●)

於牟奈 (●?○)

乎里豆 (●○?)

乎里 (●×)

乎留波 (???)

27
ウ 3

58
ウ 1

31
才 2

14
才 3

34
才 1

9
ウ 6

57
ウ 6

3
才 6

18
才 2

※保曾乃於 (●●●●●)

●
●
●

●
○
●

●
○
○

(本学文学部教授)